

#### (6) 建設仮勘定

建設仮勘定—自社ビルを建てる場合などに、竣工(完成)前に部分的に建設費用を支払った場合に用いる勘定(=建設中の建物を資産として計上するイメージ)

・×1年度に、総工費 10,000,000 円、工期 2 年の自社ビルの建設を発注した。×1年度には、契約着手金 500,000 円及び中間検収時に 3,000,000 を支払った。×1年度の仕訳をせよ。

・上記工事について、×2年度には、2 回目の中間支払及び完成時点に残額の 6,500,000 円を支払った。

また、×2年度末に自社ビルが完成し引き渡しを受けた。×2年度(支払時及び引き渡し時)の仕訳をせよ。

#### (7) 有形固定資産の改良・修繕

・資本的支出—固定資産の価値を高めるための支出であり、「建物」など資産の勘定で処理する。(例: 自社ビルに非常階段を取り付けた)

・収益的支出—固定資産の機能を維持するための支出であり、「修繕費」など費用で処理をする。(自社ビルの雨漏りを直した)

(157 回 1 問) 建物の修繕工事を行い、代金¥1,500,000 は小切手を振り出して支払った。なお、工事代金のうち 40%は改良のための支出と判断された。また、この修繕工事に備えて、前期までに¥700,000 の引当金を設定している。

(147 回 1 問) 本社の増設工事(工事代金¥7,000,000 は 2 回分割で銀行振込により支払済み)が完成し、各固定資産勘定等の適切な勘定に振替処理を行った。工事の明細は、建物¥6,000,000、修繕費 ¥1,000,000 であった。

(141 回 1 問) 工場の増設工事(工事代金¥ 8,800,000 は 4 回分割で小切手により支払済み)が完成し、固定資産等の勘定に振替計上を行った。工事の明細は、建物 ¥ 5,000,000、構築物 ¥ 2,000,000、修繕¥1,000,000、共通工事費 ¥800,000 であり、共通工事費は各勘定の金額比で配賦することとした。

【解答】

(6)建設仮勘定

・×1年度に、総工費 10,000,000 円、工期 2 年の自社ビルの建設を発注した。×1 年度には、契約着手金 500,000 円及び中間検収時に 3,000,000 を支払った。×1 年度の仕訳をせよ。

建設仮勘定 3,500,000 / 現金 3,500,000

・上記工事について、×2 年度には、2 回目の中間支払及び完成時点に残額の 6,500,000 円を支払った。

また、×2 年度末に自社ビルが完成し引き渡しを受けた。×2 年度(支払時及び引き渡し時)の仕訳をせよ。

支払時:建設仮勘定 6,500,000 / 現金 6,500,000

引き渡し時:建物 10,000,000 / 建設仮勘定 10,000,000

(8)有形固定資産の改良・修繕

(157 回 1 問)建物の修繕工事を行い、代金¥1,500,000 は小切手を振り出して支払った。なお、工事代金のうち 40%は改良のための支出と判断された。また、この修繕工事に備えて、前期までに¥700,000 の引当金を設定している。

建物 600,000 / 当座預金 1,500,000

修繕引当金 700,000

修繕費 200,000

(147 回 1 問)本社の増設工事(工事代金¥7,000,000 は 2 回分割で銀行振込により支払済み)が完成し、各固定資産勘定等の適切な勘定に振替処理を行った。工事の明細は、建物¥6,000,000、修繕費 ¥1,000,000 であった。さらに、

建物 6,000,000 / 建設仮勘定 7,000,000

修繕費 1,000,000

(141 回 1 問)工場の増設工事(工事代金¥ 8,800,000 は 4 回分割で小切手により支払済み)が完成し、固定資産等の勘定に振替計上を行った。工事の明細は、建物 ¥ 5,000,000、構築物 ¥ 2,000,000、修繕¥1,000,000、共通工事費 ¥800,000 であり、共通工事費は各勘定の金額比で配賦することとした。

建物 5,500,000 / 建設仮勘定 880,000

構築物 2,200,000

修繕費 1,100,000